

防災ニートの災害対応能力を向上させる アクティビティに関する研究

- 車中泊で生じる問題に対する解決姿勢に着目して -

建築・環境デザイン学科 環境計画・保存コース 福本研究室 192025 関戸彩奈



1. 研究の背景と目的

きっかけ

私の地元和歌山県は南海トラフ地震が発生時に大規模被害が予想されている。しかし、私自身の防災に対する意識は低く、防災と言われてもピンとこないことが現状だ。

そんな中、楽しいと感じて自ら実施していたことの中で、車中泊・山登り・キャンプでの経験は、災害が発生したときに役立てることのできるものが多くあるということを発見した。これが、本研究を始めたきっかけである。

防災に対する認知度

若者 防災訓練への参加率が少ない
地域との繋がりも少ない

防災訓練 受け身の姿勢で参加する
= 必要な経験が身に付きづらい

防災に対する知識が少ない
防災についての訓練を受けていない
防災の意識が低い若者世代

防災ニート

目的

1. 防災ニートでも災害時に生き残ることのできる力を養うことのできるアクティビティとは何かを明らかにする
2. そのアクティビティの成立する要件は何かを明らかにする

2. 研究方法

研究対象者

1. 防災に対する意識が低い若者世代である
長岡造形大学の学生
2. 災害への対策が十分にできていない地域住民

本研究の構成

1. 既往研究の調査、プレ調査
(16日間の車中泊の実施調査)
2. 既往研究とプレ調査をもとに仮説を設定
3. アンケート調査及び結果の分析(長岡造形大学学生対象)
4. 仮説の検証(アンケートの結果から)
5. 体験イベントの提案、実施

3. 既往研究

東日本大震災

避難生活による生活機能の低下
エコノミークラス症候群や歩行困難などの健康被害
二次避難の手段として車中泊避難

車中泊避難のメリット

三密回避

ストレス軽減

プライバシー保障

車中泊避難のデメリット

エコノミークラス症候群

熱中症、低体温症

情報入手の阻害

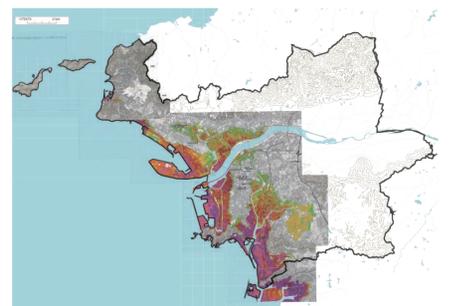
防災訓練について

内閣府による防災訓練に対する調査
自治体が行う防災訓練に
「参加したことがある」40.4%
「防災の大切さを知る機会となった」
54.0%

防災に対する意識が低い
本来は100%でなければならない

南海トラフ地震

予想津波到達時間 和歌山県 最短3分
和歌山市 50分
地震規模 マグニチュード9.1
最大津波高 8m~19m
予想被害規模 44万人が避難



南海トラフ地震発生時の和歌山市津波浸水想定図

しかし、防災・避難訓練は十分に行われていない
つまり、防災に対する意識が高いとは言えない

エコノミークラス症候群について

エコノミークラス症候群とは、深部静脈血栓症・急性肺血栓塞栓症の静脈血栓症の通称として呼ばれているものである。長時間狭い場所で座っていることや水分不足などによって足の血流が悪くなり、足の静脈に血栓ができることで発症する病気である。足にできた血栓が歩行などをきっかけにして血流に乗り、肺に到達することがある。車中泊避難では長期間車中泊を続ける(狭い空間で足を動かさないでいる)ことで、いわゆるエコノミークラス症候群(肺血栓塞栓症)を発症しやすくなる。過去の災害では死亡例も報告されているため、災害発生後の車中泊避難では特にこの疾病に注意する必要がある。

4. プレ調査

車中泊の実施調査のまとめ

車中泊の期間

7/7~7/22 16日間
(16日のうち4日はホテルでの宿泊)
費用 約11万円
総移動距離 約2500km
四国地方4県、中国地方3県、
近畿地方1県にて調査を行った。



16日間の実施調査から不便に感じたこと

車内気温を快適な温度に保つことが困難
就寝時に十分な空間の確保ができない
電子機器の電源の確保が困難
人の視線や周囲の物音がストレス
入浴・排泄など衛生面に関わる部分に不足がある
エコノミークラス症候群の危険性

車中泊のいい点

自分のペースで動ける

好きな時間に
好きなところへ行ける

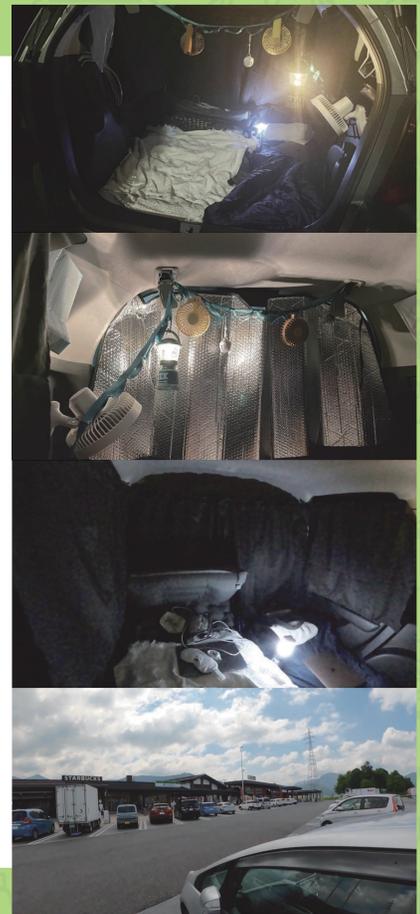
臨機応変に対応できる

車中泊の悪い点

車内温度の管理が難しい

お風呂問題

駐車場、交通費問題



車中泊実施調査の記録写真→

5. 仮説

1. 災害時に困難に対して、対応しようとする姿勢を身につけることができるアクティビティは災害時に役立てることができる。
2. 災害時に役立てることができるアクティビティの成立する要件は、(1) 災害時に感じる困難と共通する不便が発生すること (2) 力を身につけるために、参加者が積極的に参加でき、自分で考えて行動することができるものであること (3) 困りごとに対して、我慢するのではなく対処しようとする姿勢を身につけられるものであることである。

6. 結果

アンケート調査の実施

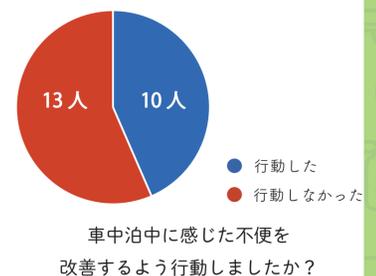
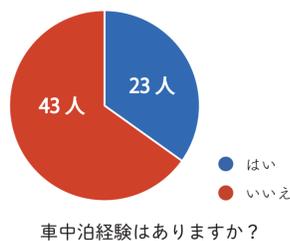
アンケート概要

調査対象	長岡造形大学の学生 (回答人数66人)
調査日	2022/12/22
実施方法	Google フォームによるアンケート

アンケート質問内容

- ・車中泊の経験の有無
- ・これまでの防災訓練で記憶に残っているものは何か
- ・車中泊中に感じた不便や危険について
- ・感じた不便を改善しようとしたか
- ・その後実際に改善するように行動したか

アンケート調査結果



車中泊中に不便を感じた人 **100%**
不便を改善した4割の人は災害時の対応能力が身につけている

経験者の6割が不便を改善しなかった理由

改善できる気がしない 私だけの問題だから我慢した 短期間だから我慢した

6割の人に車中泊経験から災害への対応能力をつけるには、...

長期間の車中泊で、成功体験を積ませるアクティビティが必要

7. 結論

車中泊をするだけで4割の人が生存するための姿勢を身につけることができた。残りの6割の人には、ワークショップとして長期間の車中泊での成功体験を擬似的に体験することで問題に対する対応能力が向上し、災害時にも活かすことができるようになる。

また、車中泊での不便を想定したイベントだけでなく登山中に起こる困難を想定したアクティビティなど、他にも多くのシチュエーションを考えることができ、より多くの防災ニートに対してアプローチすることができる。



秘密くるま基地



突然やってくる困難に君はどう対処する？

災害の困難は突然やってくる その困難に対処できる力を養うアクティビティ

1. 用意された道具や自分が用意したの中から好きなものを選ぶ
2. チームで協力して考えながら車の中に、不便を感じず楽しく快適に過ごせる空間をつくる！！

雪が降ってきたけど限られた道具で
試行錯誤しながら暖をとった

災害時の車上生活とかで使えそう

参加者の声

ホームレスになった時に
ダンボールで秘密基地を作ってみたい

車で移動するときに
雪で動けなくなった時に役に立つ

楽しかった！！

**楽しいアクティビティの中で不便を改善しようとする、快適さを求めることで
困難に対して解決しようとする姿勢を身につけることができる！！**